八高新時代!!　君も挑戦、八高で三刀流!!

「知の泉」に「緑の風」吹く

令和５年８月31日（木）
兵庫県立八鹿高等学校
校長　山 本　　宏 治

11

２学期始業式で次の話をしました。

「才能・個性」×「努力」×「　　」、の三つ目の「　　」に入る言葉は？
阪神淡路大震災で被災され、60 歳直前にプロテストに合格した神戸市出身のプロゴルファー古市忠夫氏は「感謝力」という言葉で表現されました。
また、京セラの創業者で、JAL（日本航空）の再建や KDDI の創設などにも携わった経営者、稲盛和夫氏は、この三つ目の「　　」に「考え方」という言葉を使われました。「私利私欲のために動くのか、社会の発展のために動くのかによって、この三つ目はマイナスにもプラスにもなる」と語っておられます。
私は今、この三つ目の「　　」に入る言葉は「決意」だと考えています。

「光る砂漠」という合唱作品があります。詩は矢澤宰（やざわ・おさむ）という方が書かれました。その中に「さびしい道」という曲があります。

この道を行くと　どこへ行くのか　私は今　知らない
でも私は　どうしてもこの道を行きたい
身も心も張り裂けそうな　誰も寄りそうできてくれそうにない　さびしい道
でもやっぱり　この道を行きたい

また、八鹿高校創立 100 周年に際して作られた「八鹿高等学校讃歌　歴史を刻もう」という曲があります。今年の八高祭パンフレットにも掲載されています。作詩をしたのは八鹿高校卒業の齋藤綾（さいとう・りょう）さんです。

希望の道　踏み締めて　若者は歩む
未来へ続く長いこの道を　行こうよ　八鹿の地に一歩一歩　熱い軌跡を
歴史を刻もう

若者は歩む、という部分は、「この道を進むぞ！」という決意に他なりません。

さらに、本校卒業生のソプラノ歌手、中川郁文（なかがわ・いくみ）さんが、先週長野県で「セイジ・オザワ松本フェスティバル」に出演されました。中川さんは、八高会の会報で次のように語っておられます。

これまで人生の分かれ道が何度も訪れ、その度に確信の持てない未来に怖気づきながらも、探り探り歩んできました。ただ、私には私を応援してくれる声がいつもそばにあり、いつも前を向いていられました。たくさんの方に支えてもらって活動できていることを心から感謝しています。一生挑戦、一生勉強です。

八高生の皆さんには、それぞれすばらしい能力があり、粘り強く努力する忍耐力もあります。それらを生かし、花開かせるために、何よりも今あなたが「この道を進むのだ」と決意することが求められているのです。